

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年6月27日
【事業年度】	第46期（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）
【会社名】	株式会社ツツミ
【英訳名】	TSUTSUMI JEWELRY CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 互 智司
【本店の所在の場所】	埼玉県蕨市中央4丁目24番26号
【電話番号】	048(431)5111（代表）
【事務連絡者氏名】	経理室長 並木 隆
【最寄りの連絡場所】	埼玉県蕨市中央4丁目24番26号
【電話番号】	048(431)5111（代表）
【事務連絡者氏名】	経理室長 並木 隆
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第42期	第43期	第44期	第45期	第46期
決算年月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月
売上高 (百万円)	22,148	21,764	19,172	17,566	17,515
経常利益 (百万円)	2,237	1,646	969	1,062	981
当期純利益又は 当期純損失() (百万円)	1,188	864	921	599	399
持分法を適用した 場合の投資利益 (百万円)	-	-	-	-	-
資本金 (百万円)	13,098	13,098	13,098	13,098	13,098
発行済株式総数 (千株)	20,080	20,080	20,080	20,080	20,080
純資産額 (百万円)	79,263	73,172	70,173	70,164	68,808
総資産額 (百万円)	81,422	75,025	71,976	72,023	70,669
1株当たり純資産額 (円)	3,948.53	3,957.33	3,991.38	3,990.91	4,026.20
1株当たり配当額 (円) (内1株当たり中間配当額)	30.00 (15.00)	30.00 (15.00)	30.00 (15.00)	30.00 (15.00)	30.00 (15.00)
1株当たり当期純利益金額 又は1株当たり当期純損失 金額() (円)	59.18	45.83	50.59	34.08	22.93
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	97.3	97.5	97.5	97.4	97.3
自己資本利益率 (%)	1.5	1.1	1.3	0.9	0.6
株価収益率 (倍)	49.8	-	-	60.0	82.0
配当性向 (%)	50.7	-	-	88.0	130.8
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,663	1,437	1,679	1,883	2,190
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	506	171	194	157	357
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	602	4,930	2,250	527	1,556
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	42,135	38,465	37,700	38,898	39,889
従業員数 (人)	1,124 (135)	1,060 (132)	1,026 (127)	973 (116)	930 (117)
株主総利回り (%) (比較指標：配当込みTOPIX)	120.2 (130.7)	98.5 (116.5)	87.5 (133.7)	87.3 (154.9)	81.9 (147.1)
最高株価 (円)	3,000	3,180	2,427	2,300	2,259
最低株価 (円)	2,241	2,227	1,555	1,801	1,714

(注) 1 当社は連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には消費税等は含まれておりません。

3 第42期、第45期、第46期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、第43期、第44期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額につきましては、1株当たり当期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

- 4 従業員数の（外書）は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。
- 5 第43期、第44期の株価収益率は、当期純損失が計上されているため記載しておりません。
- 6 第43期、第44期の当期純利益の減少は、固定資産の減損損失の計上等によるものであります。
- 7 最高株価及び最低株価は東京証券取引所（市場第一部）におけるものであります。

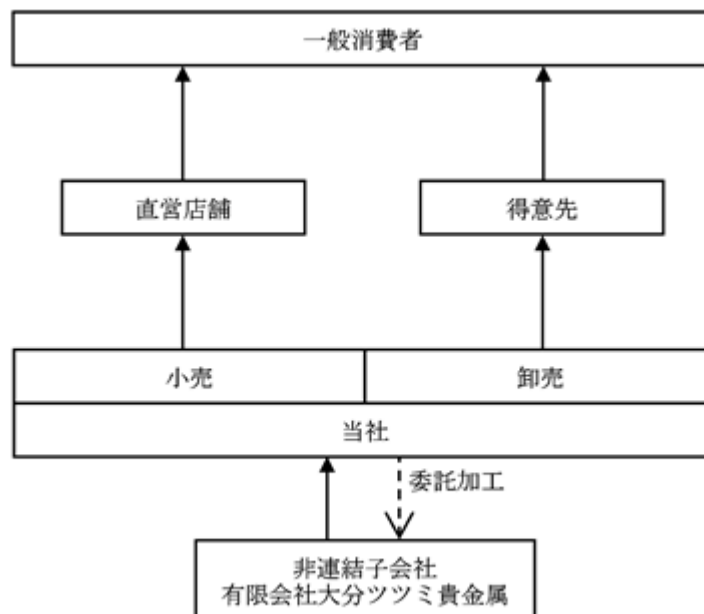
2【沿革】

年月	事項
1973年 6月	埼玉県蕨市において株式会社堤貴金属工芸を設立、宝飾品の製造を開始
1973年11月	埼玉県蕨市に蕨店を開設、宝飾品の小売事業を開始
1975年 1月	宝飾品の卸売事業を開始
1984年 1月	埼玉県蕨市に本社、工場を移転（現 本社工場）
1988年 4月	株式会社キングスター宝飾を吸収合併し、商号を「株式会社ツツミ」に変更
1988年 8月	埼玉県蕨市に第二工場新設
1990年 1月	群馬県渋川市に群馬工場新設
1991年 9月	社団法人日本証券業協会（現 日本証券業協会）へ店頭登録し株式を公開
1993年 6月	埼玉県蕨市に本社を移転（現 本社）
1994年 9月	東京証券取引所市場第二部に株式を上場
1995年 7月	有限会社ベルジュ（現 有限会社大分ツツミ貴金属）に出資し、子会社化
1996年 9月	東京証券取引所の市場第一部銘柄に指定
1997年 3月	埼玉県蕨市に商品センター新設
1998年10月	有限会社エスアンドエスを吸収合併

3【事業の内容】

当社の主な事業内容は、宝飾品（ネックレス・ブレスレット、指輪、小物及びその他装飾品等）の製造並びに直営店での販売及び得意先への卸売を行っており、区分すべき事業セグメントは存在しておりません。非連結子会社である有限会社大分ツツミ貴金属（宝飾品製造業）は、当社における製造部門の委託加工を行っております。

事業の系統図は、次のとおりであります。



4【関係会社の状況】

該当事項はありません。

5【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

当社の事業内容は、宝飾品の製造とその販売であり、区分すべき事業セグメントが存在しないため、セグメントごとの従業員の状況の記載を省略しております。

2019年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
930 (117)	39.3	9.5	4,046

- (注) 1 平均年間給与は、正社員に対する支給額であり、賞与及び基準外賃金が含まれております。
2 従業員数は、就業人員であり、臨時従業員数は()内に年間の平均雇用人員を外書に記載しております。

(2) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

下記の文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

(1) 経営方針

当社は、「常に技術の向上を目指し、お客様に美と夢と満足を提供する」を社是として定めております。ジュエリーやアクセサリ等の商品の企画・開発並びに原材料の買い付け、製造、販売までの各過程における技術力を従業員教育により向上させ、お客様に美と夢と満足を提供してまいります。

(2) 経営環境及び対処すべき課題

今後の経済情勢につきましては、雇用・所得環境の改善が続く中で、各種政策の効果もあって、景気は緩やかな回復が続くことが期待されます。しかしながら、通商問題の動向が世界経済に与える影響や、中国経済の先行き、海外経済の動向と政策に関する不確実性、金融資本市場の変動の影響などがわが国の景気を下押しするリスクとして残り、先行き不透明な状況が続くものと予想されます。

宝飾品業界におきましても、お客様による多様な選別化が進み、企業間の競争は更に激化することが予想されます。

このような経済情勢のもと、当社は、引き続きより幅広い層へのブランディングに注力するとともに、お客様満足度の向上を更に推進し、魅力溢れる店舗づくりに全力で取り組んでまいります。

2【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

(1) 原材料価格の変動

当社は原材料の買い付けから、製造・販売に至るすべてを一貫して行う「パーティカル インテグレーション システム」により、主として自社製品を店舗販売しており、一定の在庫量が必要な事業形態をとっております。

当社の製品の主原材料である金、プラチナ等の仕入価格は、国際市況商品であるため、当社の業績が流通価格及び為替相場の変動の影響を受ける場合があります。

(2) 店舗展開について

賃貸借契約にてショッピングセンターへ出店しているため、ショッピングセンター自身の経営環境の変化によっては、当社の売掛債権及び営業保証金並びに敷金などの未返還等により当社の業績に影響を受ける場合があります。

(3) 個人情報の管理について

当社は、顧客情報の漏洩に対しては、管理体制を強化するなど、万全を期しておりますが、何らかの要因により情報が流失した場合は、社会的責任を負うこととなり、結果として当社の業績に影響を受ける場合があります。

(4) 人材確保について

当社は、人材の確保・教育を最重要課題としておりますが、優秀な社員の育成には、時間がかかるため、当社の業績に影響を受ける場合があります。

(5) 災害等について

当社の店舗や本社所在地を含む地域において、大地震や台風等の災害あるいは予期せぬ事故等が発生した場合、被災状況によっては正常な販売活動の停止、店舗・施設の物理的損害の発生等により、当社の業績に影響を受ける場合があります。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当事業年度における当社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

経営成績の状況

当事業年度におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善などを背景に緩やかな景気回復基調で推移いたしました。通商問題や世界的な地政学的リスクの高まりによる影響が懸念されるなど不安要素が多数存在し、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

宝飾品業界におきましても、こうした景況を反映し、企業を取り巻く環境は引き続き厳しい状況でありました。

このような経済情勢のもと、当社は、20代から30代の女性をターゲットにしたジュエリーブランド「TODAY's DIAMONDS」を新たに立ち上げ、新規顧客の獲得に努めるとともに、ハウスブランド「Pure Planets」「Blessed Rain」の継続的なブランディング施策を推進するなど、販売力の更なる強化に取り組んでまいりました。

その結果、売上高は175億15百万円（前期比0.3%減）となりました。利益面につきましては、営業利益が9億13百万円（前期比5.7%減）、経常利益が9億81百万円（前期比7.6%減）、当期純利益は3億99百万円（前期比33.3%減）となりました。

主要品目の販売実績は、ネックレス・ブレスレットは63億8百万円（前期比2.3%減）、指輪は61億78百万円（前期比3.5%減）、小物は29億37百万円（前期比0.3%増）であります。

店舗につきましては、ジュエリーツツミイオンモールいわき小名浜店をはじめとする7店舗を新たに開設したほか、既存店3店舗のリニューアル及び9店舗の退店を実施いたしました。

なお、当社の事業内容は、宝飾品の製造とその販売であり、区分すべき事業セグメントが存在しないため、セグメントごとの業績の状況の記載を省略しております。

財政状態の分析

当事業年度末の総資産は、706億69百万円となり、前事業年度末と比較して13億53百万円減少しております。これは主に、現金及び預金が9億91百万円、1年内回収予定の差入保証金が1億45百万円増加したものの、商品及び製品が9億73百万円、土地が5億12百万円、投資有価証券が4億42百万円、差入保証金が3億4百万円、原材料及び貯蔵品が1億86百万円減少したことによるものです。

純資産の部は、688億8百万円となり、前事業年度末と比較して13億56百万円減少しております。これは主に、自己株式が9億99百万円増加し、その他有価証券評価差額金が2億30百万円、利益剰余金が1億26百万円減少したことによるものです。利益剰余金の減少は、当期純利益の計上に伴い増加したものの、配当金の支払に伴い減少したことによるものです。

キャッシュ・フローの状況

当事業年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動及び投資活動によりそれぞれ21億90百万円、3億57百万円の資金が得られ、財務活動により15億56百万円の資金を使用したことにより、前事業年度末に比べ9億91百万円増加し、398億89百万円となりました。

また、当事業年度における各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において営業活動により得られた資金は21億90百万円となり、前年同期と比べ3億7百万円の増加となりました。

これは主に、前年同期において、税引前当期純利益を10億39百万円、内、減損損失を60百万円、投資有価証券売却益を21百万円計上し、たな卸資産の減少9億10百万円があったことに対し、当事業年度において、税引前当期純利益を7億34百万円、内、減損損失を5億88百万円、投資有価証券売却益を3億32百万円計上し、たな卸資産の減少12億82百万円があったことによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において投資活動により得られた資金は3億57百万円となり、前年同期と比べ5億15百万円の増加となりました。

これは主に、前年同期と比べ投資有価証券の売却による収入が4億97百万円増加したことによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において財務活動により使用した資金は15億56百万円となり、前年同期と比べ10億28百万円の増加となりました。

これは主に、前年同期と比べ自己株式の取得による支出が10億16百万円増加したことによるものです。

生産、受注及び販売の実績

当社の事業内容は、宝飾品の製造とその販売であり、区分すべき事業セグメントが存在しないため、製品の種類別に生産実績及び販売実績を記載しております。

1) 生産実績

区分	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	前年同期比(%)
ネックレス・ブレスレット(百万円)	2,500	99.3
指輪(百万円)	1,658	94.1
小物(百万円)	1,088	93.4
その他(百万円)	2,074	117.6
合計(百万円)	7,321	101.6

(注) 金額は製造原価によっており、消費税等は含まれておりません。

2) 受注実績

当社は、見込み生産を行っており、受注生産は行っておりません。

3) 販売実績

区分	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	前年同期比(%)
ネックレス・ブレスレット(百万円)	6,308	97.7
指輪(百万円)	6,178	96.5
小物(百万円)	2,937	100.3
その他(百万円)	2,090	117.6
合計(百万円)	17,515	99.7

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この財務諸表の作成にあたり、見積りが必要な事項につきましては、一定の会計基準の範囲内にて合理的な基準に基づき、会計上の見積りを行っております。詳細につきましては、「第5 経理の状況 1 財務諸表等 (1) 財務諸表 重要な会計方針」に記載しております。

当事業年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

当社は、消費者ニーズの変化に対応した新商品の開発に継続的に取り組んでおり、ハウスブランド「Pure Planets」「Blessed Rain」の新作シリーズ等を適時投入しております。

また、新作ジュエリー等の認知度向上のため、ファッション誌への掲載やSNSツールを活用した情報発信を実施しております。

店舗につきましては、集客力の高い商業施設等に7店舗を開設したほか、既存店の活性化等に伴い3店舗のリニューアル及び契約期間満了等に伴い9店舗の退店を実施いたしました。その結果、当事業年度末現在の店舗数は169店舗となり前事業年度末現在と比較して2店舗減少しております。また、地方別の店舗数については、東北地方が7店舗、関東地方が110店舗、中部地方が14店舗、近畿地方が19店舗、中国地方が4店舗、四国地方が4店舗、九州地方が11店舗となっております。

なお、当社の事業内容は、宝飾品の製造とその販売であり、区分すべき事業セグメントが存在しないため、セグメントごとの業績の状況の記載を省略しております。

1) 当事業年度の経営成績等

(イ) 売上高

売上高は、175億15百万円となり前事業年度と比較して51百万円減少しております。

これは主に、その他(金・白金等)が2億97百万円増加したものの、ネックレス・ブレスレットが1億50百万円、指輪が2億23百万円減少したことによるものです。ネックレス・ブレスレット及び指輪の減少は、主に店舗への来店客数並びに販売数量が減少したことによるものです。

(ロ) 売上原価

売上原価は、81億92百万円となり前事業年度と比較して2億2百万円増加しております。

これは主に、その他(金・白金等)が2億96百万円増加したことによるものです。

(ハ) 販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費は、84億9百万円となり前事業年度と比較して1億98百万円減少しております。

これは主に、給与・賞与が1億51百万円減少したことによるものです。給与・賞与の減少は、主に従業員数が減少したことによるものです。

(ニ) 営業外損益

営業外損益におきましては、営業外費用20百万円は、前事業年度と比較して16百万円増加しております。

これは主に、支払手数料が20百万円増加したことによるものです。支払手数料の増加は、主に自己株式の取得関連の手数料が増加したことによるものです。

(ホ) 特別損益

特別損益におきましては、特別利益3億50百万円は、前事業年度と比較して3億11百万円増加しております。これは主に、投資有価証券売却益が3億11百万円増加したことによるものです。投資有価証券売却益の増加は、主に純投資目的である投資株式の一部を売却したことによるものです。

特別損失5億96百万円は、前事業年度と比較して5億35百万円増加しております。これは主に、固定資産の減損損失が5億28百万円増加したことによるものです。

2) 経営成績に重要な影響を与える要因

当社の経営成績に重要な影響を与える要因として、経済情勢、消費者ニーズの変化、他社との競合、法的規制等、様々なリスク要因があると認識しております。

そのため、当該リスクを分散・低減すべく、市場動向に留意しつつ、内部管理体制の強化等、適切に対応していく所存であります。

なお、経営成績に重要な影響を与える要因のうち、投資者の判断に重大な影響を与える可能性のある事項については、「第2 事業の状況 2 事業等のリスク」に記載しております。

3) 資本の財源及び資金の流動性

当社は、健全で安定した財務体質の形成に努めております。

必要な運転資金及び設備投資資金を全額自己資金で賄っており、自己資金の範囲内で安全かつ安定的な資金運用が可能と認識しております。なお、次期の設備投資等の総額は2億21百万円となっております。

4) 経営方針・経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社は、お客様に美と夢と満足を提供することにより、会社の持続的な成長を果たし、中長期的な企業価値の向上を達成することを経営の目標としております。経営指標としては、収益力を示す営業利益及び営業キャッシュ・フローを重視し、これらの拡大を目指しております。

なお、当事業年度の営業利益につきましては9億13百万円となり、前事業年度と比較して54百万円減少しております。

営業活動によるキャッシュ・フローにつきましては、営業活動により得られた資金は21億90百万円となり、前年同期と比べ3億7百万円の増加となりました。

4【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5【研究開発活動】

当社は、品質向上及びコストダウンの為に不断の技術改善/研究開発、及び多様なお客様のニーズを的確に商品に反映し商品価値のある新製品の開発を進めております。

当事業年度は以下の研究課題に取り組んでおります。

- (1) お客様にとって魅力のあるデザインの追求及び製品の開発。
- (2) 冶金技術、鑄造技術の更なる研究開発を通し、低コストで安定した品質の製品の製造技術の確立。
- (3) 総合的な技術開発の結果を基に、より繊細な石留技術の開発。
- (4) コンピューターを使った自動デザイン製作及び自動ワックス成型化により、市場からのニーズに応えた迅速な新製品の製造を可能とする技術の確立。

なお、当事業年度における研究開発費の総額は、21百万円であります。

当社の事業内容は宝飾品の製造とその販売であり、区分すべき事業セグメントが存在しないため、セグメントごとの研究開発活動の記載を省略しております。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当事業年度の設備投資等の総額は340百万円であります。その主なものは、店舗の開設及びリニューアルに伴う内装費186百万円であります。

なお、当社の事業内容は宝飾品の製造とその販売であり、区分すべき事業セグメントが存在しないため、セグメントごとの設備投資等の概要の記載を省略しております。

2【主要な設備の状況】

当社の事業内容は宝飾品の製造とその販売であり、区分すべき事業セグメントが存在しないため、セグメントごとの主要な設備の状況の記載を省略しております。

2019年3月31日現在

地域別	帳簿価額(百万円)						従業員数 (人)	
	土地		建物・構築物	工具、器具及 び備品	その他	合計		
	面積(m ²)	金額						
営業設備 (販売業務)	東北(7店舗)	-	-	15	6	-	22	26
	関東(110店舗)	2,296	5,209	220	74	-	5,504	425
	中部(14店舗)	-	-	26	9	-	35	57
	近畿(19店舗)	-	-	44	16	-	61	74
	中国(4店舗)	-	-	0	0	-	0	13
	四国(4店舗)	-	-	7	4	-	11	17
	九州(11店舗)	-	-	33	11	-	44	44
生産設備等 (管理・製造)	本社(蕨市)	3,700	1,339	302	73	0	1,715	159
	工場(蕨市他)	8,577	544	46	4	23	619	115
その他設備	その他	1,813	601	4	-	-	605	-
合計		16,386	7,695	701	200	23	8,621	930

- (注) 1 百万円未満は切り捨てて記載しております。
2 金額は有形固定資産の帳簿価額であり、建設仮勘定は含まれておりません。
3 その他の内訳は、車両運搬具 0百万円、機械及び装置 23百万円であります。
4 その他設備の「その他」には、賃貸中の土地・建物等 475百万円(1,238m²)が含まれております。

3【設備の新設、除却等の計画】

当社の事業内容は宝飾品の製造とその販売であり、区分すべき事業セグメントが存在しないため、セグメントごとの設備の新設、除却等の計画の記載を省略しております。

(1) 重要な設備の新設等

部署名	設備の内容	投資予定金額		資金調達方法	着手及び完了予定年月		完成後の増加能力
		総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
本部	事務機器等	130	77	自己資金	2019年4月	2020年3月	事務効率向上等
店舗 運営部	店舗設備 (改装)	90	-	自己資金	2019年4月	2020年3月	販売力の拡大
合計		221	77				

- (注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
2 投資予定総額には、敷金・差入保証金が含まれております。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (2019年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2019年6月27日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	20,080,480	20,080,480	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	20,080,480	20,080,480		

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
1998年10月1日	1 6,380	20,080	1 319	13,098	1 209	15,707
	2 6,336		2 319			

(注) 1 有限会社エスアンドエスとの合併による増加であります。

合併登記日 1998年10月9日

合併比率 有限会社エスアンドエスの出資1口(1口の金額50円に換算)につき、当社の額面普通株式(1株の額面金額50円)2.9株の割合

2 有限会社エスアンドエスとの合併により承継した自己株式の消却による減少であります。

(5)【所有者別状況】

2019年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況 (株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	26	23	58	87	4	5,096	5,294	-
所有株式数 (単元)	-	13,275	2,264	10,279	23,149	5	151,636	200,608	19,680
所有株式数の 割合(%)	-	6.62	1.13	5.12	11.54	0.00	75.59	100.00	-

(注) 1 自己株式2,990,408株は、「個人その他」に29,904単元、「単元未満株式の状況」に8株含まれております。

2 「その他の法人」及び「単元未満株式の状況」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、それぞれ6単元及び20株含まれております。

(6)【大株主の状況】

2019年3月31日現在

氏名または名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
堤 征二	埼玉県蕨市	9,732	56.94
堤 倭子	埼玉県蕨市	1,271	7.44
公益財団法人ツツミ奨学財団	埼玉県蕨市中央4丁目24番26号	1,000	5.85
THE BANK OF NEW YORK 134105(常任代 理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	東京都港区港南2丁目15番1号 品川インターシティA棟	423	2.47
日本トラスティ・サービス信託銀行株 式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	402	2.35
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103(常任代理人 株式会社みずほ 銀行決済営業部)	東京都港区港南2丁目15番1号 品川インターシティA棟	231	1.35
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223(常任代理人 株式会社みずほ 銀行決済営業部)	東京都港区港南2丁目15番1号 品川インターシティA棟	212	1.24
日本マスタートラスト信託銀行株式会 社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	172	1.01
UBS AG LONDON A/C IPB SEGREGATED CLIENT ACCOUNT(常任代理人 シティバ ンク、エヌ・エイ東京支店)	東京都新宿区新宿6丁目27番30号	155	0.90
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001(常任代理人 株式会社みずほ 銀行決済営業部)	東京都港区港南2丁目15番1号 品川インターシティA棟	148	0.86
計		13,749	80.45

(注)1 上記のほか、自己株式が2,990千株あります。

2 ブランデス・インベストメント・パートナーズ・エル・ピー(Brandes Investment Partners, L.P.)か
ら、2014年5月9日付の大量保有報告書の写しの送付があり、2014年4月30日現在で以下のとおり株式を保
有している旨の報告を受けておりますが、当社として2019年3月31日現在における実質所有株式数の確認が
できませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
ブランデス・インベストメント・ パートナーズ・エル・ピー (Brandes Investment Partners, L.P.)	11988 El Camino Real, Suite 500, San Diego, CA 92191, U.S.A.	1,013	5.05

3 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	401千株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	172千株

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,990,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 17,070,400	170,704	-
単元未満株式	普通株式 19,680	-	-
発行済株式総数	20,080,480	-	-
総株主の議決権	-	170,704	-

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が600株(議決権の数6個)含まれております。

2 単元株式数は、100株となっております。

【自己株式等】

2019年3月31日現在

所有者の氏名 または名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数 の合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ツツミ	埼玉県蕨市中央4丁目24番26号	2,990,400	-	2,990,400	14.89
計	-	2,990,400	-	2,990,400	14.89

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号及び第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(2018年8月10日)での決議状況 (取得期間 2018年8月13日~2019年7月31日)	550,000	1,000,000,000
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式	490,900	999,579,742
残存決議株式の総数及び価額の総額	59,100	420,258
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	10.75	0.04
当期間における取得自己株式	200	377,300
提出日現在の未行使割合(%)	10.71	0.00

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(2019年5月10日)での決議状況 (取得期間 2019年5月13日~2020年4月30日)	600,000	1,000,000,000
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式		
残存決議株式の総数及び価額の総額		
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)		
当期間における取得自己株式	69,200	132,569,393
提出日現在の未行使割合(%)	88.47	86.74

(注) 当期間における取得自己株式には、2019年6月1日からこの有価証券報告書提出日まで取得した自己株式は含まれておりません。

(3) 【株主総会決議または取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	199	411,707
当期間における取得自己株式		

(注) 当期間における取得自己株式には、2019年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他(-)				
保有自己株式数	2,990,408		3,059,808	

(注) 当期間における保有自己株式数には、2019年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの取締役会決議による自己株式の取得及び単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主に対する安定的利益還元を重要政策のひとつとして位置づけ、今後とも収益力の向上、財務体質の強化を図り、安定的な配当を継続して行うことを基本方針としております。

また、当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当につきましては株主総会、中間配当につきましては取締役会であります。

以上の配当方針に基づき、当事業年度の配当につきましては、1株当たり30円(うち中間配当15円)としております。

内部留保につきましては、新店舗等設備投資に充当し、企業基盤の拡充のため有効に投資していく所存であります。

なお、当社は、会社法第454条第5項に定める剰余金の配当を行うことができる旨を定款に定めております。当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
2018年11月9日 取締役会決議	262	15
2019年6月27日 定時株主総会決議	256	15

4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

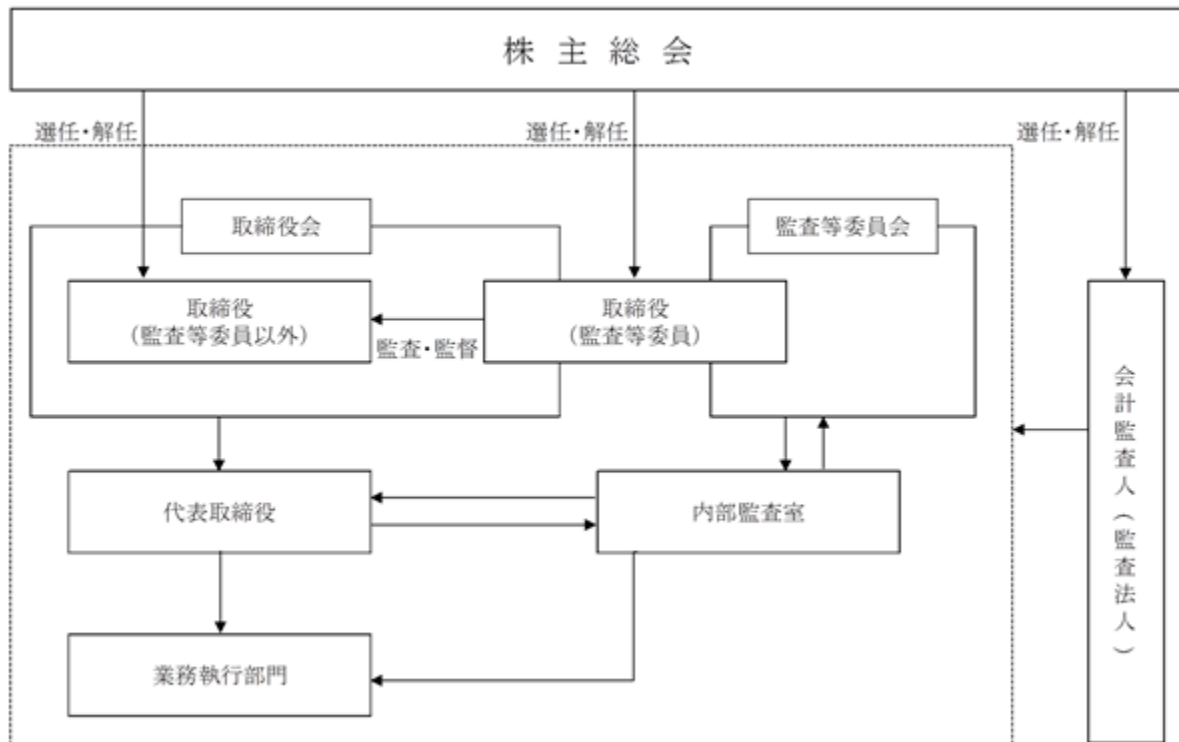
(1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、法令等の遵守に基づく企業倫理の重要性を認識するとともに、適切なコーポレート・ガバナンスを実現し、社是のとおり「常に技術の向上を目指し、お客様に美と夢と満足を提供する」ことにより、株主や従業員、お客様、取引先、債権者、地域社会などの様々なステークホルダーへの価値を創造してまいります。

企業統治の体制

1) 企業統治の体制の概要



当社の取締役会は、当社定款に基づき代表取締役会長堤征二氏または代表取締役社長互智司氏が議長を務めております。その他の構成員は、取締役岡野勝美氏、取締役（常勤監査等委員）水谷敦秀氏、社外取締役（監査等委員）宮原敏夫氏及び社外取締役（監査等委員）柿沼佑一氏の計6名の取締役で構成されております。また、当社は経営の基本方針やその他の重要事項を決定する定例取締役会を原則として月に1回開催するほか、経営環境の変化に迅速な対応と意思決定ができるよう必要に応じて臨時取締役会を開催しております。

当社の監査等委員会は、取締役（常勤監査等委員）水谷敦秀氏が議長及び委員長を務めております。その他の構成員は、社外取締役（監査等委員）宮原敏夫氏及び社外取締役（監査等委員）柿沼佑一氏の計3名の取締役（監査等委員）で構成されております。また、当社は定例監査等委員会を原則として月に1回開催するほか、必要に応じて臨時監査等委員会を開催しております。監査等委員会は、内部統制システムを活用した組織的監査を実施するほか、監査等委員会が選定する監査等委員は業務執行取締役・使用人等に対し、その職務の執行に関する事項の調査を求め、または会社の業務及び財産の状況を調査しております。また、内部監査室、会計監査人及び総務室等と連携し、経営に対する監査・監督機能の強化を図っております。

会計監査は、有限責任 あずさ監査法人を選任し、監査契約を結び正しい経営情報を提供し、公正不偏な立場から監査が実施される環境を整備しております。

2) 当該企業統治体制を採用する理由

当社は、監査等委員である取締役の取締役会における議決権の行使及び過半数の社外取締役で構成する監査等委員会の設置により、取締役会の監査・監督機能が強化され、コーポレート・ガバナンス体制の更なる充実が図れると考え、独立性の確保された監査等委員である社外取締役2名を含む3名で構成する監査等委員会を置く、監査等委員会設置会社を採用しております。

企業統治に関するその他の事項

- 1) 当社及び当社子会社の取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
・コンプライアンス・リスク担当者を設置し、当社及び当社子会社の「法令等違反事態発生時対応規程」「行動規範」などを定め、その推進を図ります。
- 2) 当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
・「文書取扱規程」「情報セキュリティ基本方針」「個人情報保護マニュアル」を定め、適切に対応します。
- 3) 当社及び当社子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制
・コンプライアンス・リスク担当者を設置し、「リスク管理方針」「リスク管理規程」などを定め、当社及び当社子会社の事業目標の達成を阻害する要因をリスクとして識別、分析及び評価し、当該リスクに対して適切に対応する仕組みを構築します。
- 4) 当社及び当社子会社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
・取締役の職務執行の効率性を確保するよう、取締役会において取締役（監査等委員である取締役を除く。）の職務分掌を決定しております。また、当社及び当社子会社の実績管理を行うため、取締役会の有効活用を図ります。
- 5) 当社及び当社子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制
・当社の企業集団は、当社及び非連結子会社「有限会社大分ツツミ貴金属」であり、取締役会において定期的に当社及び当社子会社の財務状況及び業務執行状況などの報告を行うとともに子会社を含む企業集団としての経営につき協議し、当社及び当社子会社が経営方針に従って適正かつ適法に運営されていることを確認します。
- 6) 当社の監査等委員会の職務を補助すべき取締役及び使用人に関する事項、当該取締役及び使用人の当社の他の取締役（監査等委員である取締役を除く。）からの独立性に関する事項並びに当該取締役及び使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項
・監査等委員会の求めに基づき、必要に応じて監査等委員会の業務補助のための取締役及び使用人を置きます。この場合、当該取締役及び使用人への指揮命令権は監査等委員会に属するものとし、取締役（監査等委員である取締役を除く。）からの独立性を確保するため、その任命等、人事権に係る事項の決定には監査等委員会の事前の同意を得ます。
- 7) 当社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）及び使用人並びに当社子会社の取締役及び使用人またはこれらの者から報告を受けた者が当社の監査等委員会に報告をするための体制、報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制
・当社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）及び使用人並びに当社子会社の取締役及び使用人またはこれらの者から報告を受けた者は、当社もしくは当社子会社が法令もしくは定款に違反する行為を発見した場合、またはそのおそれがある場合などで、当社もしくは当社子会社に著しい損害・不利益を生ずるおそれがある事実を発見した場合は、法令に従い当社の監査等委員会に報告することとします。また、当社の監査等委員会が選定する監査等委員は、重要な意思決定の過程及び業務の執行状況を把握するため、重要な会議に出席するとともに、業務執行に関する重要な文書を閲覧し、必要に応じて取締役（監査等委員である取締役を除く。）に内容説明を求めることができます。
・当社及び当社子会社は、当社の監査等委員会に前号の報告を行った者が当該報告を行ったことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止する体制とします。

- 8) 当社の監査等委員の職務の執行（監査等委員会の職務の執行に関するものに限る。）について生ずる費用の前払または償還の手續その他の当該職務の執行について生ずる費用または債務の処理に係る方針に関する事項
- ・当社の監査等委員が、その職務の執行について生ずる費用の前払または償還等の請求をしたときは、当該監査等委員の職務の執行に必要でないと認められた場合を除き、速やかに当該費用または債務を処理します。
- 9) その他当社の監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- ・当社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）は、監査等委員会の監査の実効性を確保するため、監査等委員が内部監査部門や会計監査人と情報・意見を交換する機会を確保します。
- 10) 責任限定契約の内容の概要
- ・当社は、会社法第427条第1項の規定に基づき、取締役（業務執行取締役等である者を除く。）との間に、同法第423条第1項の責任を限定する契約を締結することができる旨を定款に定めており、社外取締役2名を含む監査等委員である取締役3名と当該契約を締結しております。なお、当該契約に基づく責任の限度額は、法令が規定する額としております。
- 11) 取締役の定数並びに取締役の選任の決議要件
- ・当社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）の人数は15名以内、監査等委員である取締役の人数は4名以内とする旨を定款に定めております。また、取締役の選任の決議要件につきましては、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨並びに取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。
- 12) 取締役会で決議できる株主総会決議事項
- ・自己株式の取得
当社は、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議により市場取引等により自己株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経済情勢の変化に対応して、資本政策を機動的に実施することを目的とするものであります。
 - ・中間配当
当社は、会社法第454条第5項の規定に基づき、取締役会の決議により毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる旨を定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。
 - ・取締役の責任免除
当社は、会社法第426条第1項の規定に基づき、取締役会の決議により同法第423条第1項に規定する取締役（取締役であった者を含む。）の責任を法令の限度において免除することができる旨を定款に定めております。これは、取締役が、期待される役割を十分に発揮することを目的とするものであります。
- 13) 株主総会の特別決議要件
- ・当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件につきまして、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会の特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会を円滑に運営することを目的とするものであります。

14) 会社のコーポレート・ガバナンスの充実に向けた取組みの最近1年間における実施状況

・コンプライアンス体制について

当社及び当社子会社は、コンプライアンス体制の基礎となる「法令等違反事態発生時対応規程」「行動規範」にて「法令等の遵守」を掲げ、役職員への徹底を図るため、定期的な内部統制打合せ会や適宜に研修等を実施いたしました。また、問題の未然防止と早期発見を図るため、内部通報窓口を設置し、調査及び適切な措置の実行に備えました。

・リスク管理体制について

経営における重大な損失、不利益等を最小限にするため「リスク管理方針」「リスク管理規程」などを定め、リスクの識別、分析、評価及び対策等によるリスク管理を継続的に行うとともに、その結果を定期的に取締役会に報告いたしました。

・取締役の職務の執行について

原則として月1回の取締役会を開催し、業績の報告・検討や法令または定款に定められた事項及び経営上の重要事項を決定するとともに、当社子会社の業務執行の報告を受け、業務執行の確認を行いました。

・監査等委員の職務の執行について

原則として月1回の監査等委員会を開催し、監査方針・監査計画等を決定するとともに、重要な会議への出席、重要な決裁書類等の閲覧等を通じて取締役会及び業務執行取締役の業務執行の妥当性、適法性の監査・監督を行いました。また、代表取締役との意見交換会の開催や業務執行取締役、内部監査部門及び会計監査人と情報交換・意見交換を行いました。

・内部監査の実施について

内部監査部門は、内部監査計画に基づき業務活動が法令、定款及び諸規程に準拠し、合理的に運営されているか否かについての業務監査等を行うとともに、当該監査の結果及び指摘事項に関する改善状況について代表取締役及び監査等委員に対して報告を行いました。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性 6名 女性 -名 (役員のうち女性の比率 -%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 会長	堤 征二	1943年2月9日生	1962年9月 堤貴金属工業創業 1973年6月 株式会社堤貴金属工業(現 株式会社 ツツミ)設立 代表取締役社長就任 2000年12月 財団法人ツツミ奨学財団(現 公益財 団法人ツツミ奨学財団)理事長就任 2011年6月 代表取締役会長就任(現)	(注)5	9,732
代表取締役 社長	互 智司	1965年7月23日生	2005年8月 株式会社三井住友銀行退社 2005年9月 当社入社 2006年6月 取締役社長付就任 2007年4月 取締役管理本部長兼総務部長就任 2009年4月 取締役管理本部長兼営業本部長兼総務 部長就任 2011年6月 代表取締役社長就任(現) 2013年6月 公益財団法人ツツミ奨学財団理事長 就任(現)	(注)5	10
取締役 商品本部長	岡野 勝美	1956年9月27日生	1981年4月 当社入社 2000年9月 店舗運営本部第二運営部長 2004年6月 取締役店舗運営本部第二運営部長就任 2005年9月 取締役店舗運営本部第一運営部長就任 2007年4月 取締役商品本部長就任(現) 2015年6月 公益財団法人ツツミ奨学財団評議員 就任(現)	(注)5	27
取締役 (常勤監査等委員)	水谷 敦秀	1957年11月21日生	1986年3月 当社入社 2004年6月 商品本部長 2008年5月 商品本部管理部長 2008年6月 取締役商品本部管理部長就任 2019年6月 取締役(常勤監査等委員)就任(現)	(注)6	3
取締役 (監査等委員)	宮原 敏夫	1950年3月3日生	1973年4月 監査法人朝日会計社(現 有限責任 あ ずさ監査法人)入社 1976年8月 公認会計士登録 1977年6月 税理士登録 1980年10月 監査法人朝日会計社(現 有限責任 あ ずさ監査法人)退社 1980年10月 宮原敏夫公認会計士事務所開設(現) 2001年3月 爽監査法人代表社員就任(現) 2005年6月 当社補欠監査役 2011年1月 税理士法人朝日会計社開設(現) 2014年6月 当社監査役就任 2017年6月 当社取締役(監査等委員)就任(現)	(注)6	1
取締役 (監査等委員)	柿沼 佑一	1977年11月16日生	2005年4月 最高裁判所司法研修所入所 2007年1月 埼玉弁護士会登録 2007年1月 高篠法律事務所(現 高篠・柿沼法律 事務所)入所 2010年10月 同事務所パートナー(現) 2014年6月 当社補欠監査役 2015年6月 当社取締役就任 2017年6月 当社取締役(監査等委員)就任(現)	(注)6	-
計					9,774

- (注) 1 宮原敏夫氏及び柿沼佑一氏は、社外取締役であります。
- 2 当社の監査等委員会の体制は次のとおりであります。
委員長 水谷敦秀氏、委員 宮原敏夫氏、委員 柿沼佑一氏
なお、水谷敦秀氏は、常勤の監査等委員であります。常勤の監査等委員を選定している理由は、取締役会以外の重要な会議等への出席や、内部監査部門等との連携を密に図ることにより得られた情報をもとに、監査等委員会による監査の実効性を高めるためであります。
- 3 代表取締役社長互智司氏は、代表取締役会長堤征二氏の娘の配偶者であり、取締役岡野勝美氏は、代表取締役会長堤征二氏の妹の配偶者であります。
- 4 当社は、法令に定める監査等委員である取締役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠の監査等委員である社外取締役1名を選任しております。補欠の監査等委員である社外取締役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (千株)
鈴木 剛	1984年11月17日生	2012年11月 最高裁判所司法研修所入所	
		2014年 1月 第二東京弁護士会登録	
		2014年 1月 ホープ法律事務所入所(現)	
		2015年 6月 当社補欠監査役	
		2017年 6月 当社補欠取締役(監査等委員)(現)	

- 5 2019年6月27日開催の定時株主総会の終結の時から1年間
- 6 2019年6月27日開催の定時株主総会の終結の時から2年間

社外役員の状況

当社の社外取締役は、2名であります。

当社は、社外取締役を選任するにあたり、独立性に関する基準または方針を特段定めておりませんが、株式会社東京証券取引所の独立役員の独立性に関する判断基準を参考にしております。

社外取締役(監査等委員)である宮原敏夫氏は、公認会計士及び税理士として豊富な経験と幅広い見識を有しており、経営陣から独立した立場で客観的視点から助言・提言をいただくとともに、当社の経営に対する監査・監督機能を更に強化していただくため、社外取締役として選任しております。また、当社から独立的な立場にあることから、一般株主と利益相反が生じるおそれがないものと判断し、独立役員に指定しております。

社外取締役(監査等委員)である柿沼佑一氏は、弁護士として豊富な経験と幅広い見識を有しており、経営陣から独立した立場で客観的視点から助言・提言をいただくとともに、当社の経営に対する監査・監督機能を更に強化していただくため、社外取締役として選任しております。また、当社から独立的な立場にあることから、一般株主と利益相反が生じるおそれがないものと判断し、独立役員に指定しております。

なお、当社と社外取締役との間には人的関係、資本的関係、または取引関係その他の重要な利害関係はありません。

社外取締役による監督または監査と内部監査、監査等委員会監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役は取締役会に出席し、重要事項の審議に関して業務執行取締役と意見を交換し、必要に応じて意見を述べるほか、監査等委員会を構成し、重要な文書の閲覧、取締役並びに内部統制部門等からの業務執行状況等の聴取による監査等委員会監査の結果の共有及び意見交換、会計監査人による会計監査結果の報告等を踏まえ、監査意見を形成しております。また、監査等委員会は内部監査室及び会計監査人と定期的に会合を設ける等の情報交換を行っております。

(3) 【監査の状況】

監査等委員監査の状況

当社の監査等委員会は、社外取締役2名を含む3名の監査等委員で構成しており、そのうち1名を常勤の監査等委員として選定しております。また、当社は定例監査等委員会を原則として月に1回開催するほか、必要に応じて臨時監査等委員会を開催しております。監査等委員会は、内部統制システムを活用した組織的監査を実施するほか、監査等委員会が選定する監査等委員は業務執行取締役・使用人等に対し、その職務の執行に関する事項の調査を求め、または会社の業務及び財産の状況を調査しております。また、内部監査室、会計監査人及び総務室等と連携し、経営に対する監査・監督機能の強化を図っております。また、社外取締役は、独立した立場から、内部統制部門の活動状況を監視及び検証しております。なお、社外取締役宮原敏夫氏は、公認会計士及び税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。

監査等委員会と会計監査人は、定期的に開催される監査報告会で具体的な決算上の課題につき意見交換をしているほか、監査等委員会が選定する監査等委員が往査に立ち会うなど会計監査人の業務遂行の適正性を確認しております。

内部監査の状況

当社の内部監査は、代表取締役社長直轄の内部監査室(2名)が担当しております。内部監査室は、年間の内部監査計画に基づき、各部門の業務執行状況について適法性・妥当性・効率性等の観点から内部統制に係る監査、コンプライアンス状況についての監査を実施しております。なお、内部監査の結果は、代表取締役社長に報告するとともに、監査等委員にも報告し、コンプライアンスに関する事項は、コンプライアンス・リスク担当者へ報告するなど相互の連携を図り、実効性を高めるよう努めております。

会計監査の状況

1) 監査法人の名称

有限責任 あずさ監査法人

2) 業務を執行した公認会計士

有限責任 あずさ監査法人	指定有限責任社員	公認会計士	福島 力
有限責任 あずさ監査法人	指定有限責任社員	公認会計士	川村 英紀

3) 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士5名、会計士試験合格者等4名、その他2名であります。

4) 監査法人の選定方針と理由

当社の監査等委員会は、会計監査人の選解任等の議案決定権を行使するに際して、監査等委員会が定める会計監査人の評価及び選定基準に基づき現任の会計監査人の監査活動の適切性・妥当性等を評価するとともに、会計監査人の独立性、専門性及び法令等の遵守状況等についても検討のうえ総合的に勘案した結果、適任であると判断しております。

監査等委員会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任または不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、監査等委員会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査等委員全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査等委員会が選定した監査等委員は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨及びその理由を報告いたします。

5) 監査等委員会による監査法人の評価

当社の監査等委員会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人の評価及び選定基準策定に関する監査役等の実務指針」に基づき策定した会計監査人を適切に評価及び選定するための基準に従い会計監査人を評価するとともに、会計監査人との定期的な意見交換や監査実施状況の報告等を通じて、会計監査人に求められる独立性と専門性を有しているか否かについての確認を行っております。

6) 監査法人の異動

該当事項はありません。

監査報酬の内容等

1) 監査公認会計士等に対する報酬

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬 (百万円)	非監査業務に基づく報酬 (百万円)	監査証明業務に基づく報酬 (百万円)	非監査業務に基づく報酬 (百万円)
27	-	31	-

2) 監査公認会計士等と同一のネットワークに属する組織に対する報酬

該当事項はありません。

3)その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

4)監査報酬の決定方針

該当事項はありませんが、規模、特性、監査日数等を勘案した上で決定しております。

5)監査等委員会が会計監査人の報酬等に同意した理由

当社の監査等委員会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、会計監査人の職務執行状況や監査計画の内容等を確認し、検討した結果、会計監査人の報酬等につき、会社法第399条第1項の同意を行っております。

(4)【役員の報酬等】

役員の報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針に係る事項

取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬については、株主総会が決定する報酬額の限度額内で、世間水準、会社業績、従業員給与とのバランス等を考慮し、取締役会決議により決定しております。

監査等委員である取締役の報酬については、株主総会が決定する報酬額の限度額内で、監査等委員である取締役の協議により決定しております。

なお、2017年6月29日開催の第44回定時株主総会において、取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬限度額を年額2億5千万円以内（ただし、従業員分給与は含まない。）、監査等委員である取締役の報酬限度額を年額5千万円以内と決議いただいております。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)			対象となる役員の 員数(人)
		固定報酬	業績連動報酬	退職慰労金	
取締役(監査等委員及び 社外取締役を除く。)	97	90	-	6	4
取締役(監査等委員) (社外取締役を除く。)	7	7	-	0	1
社外役員	2	2	-	-	2

報酬等の総額が1億円以上である者の報酬等の総額等

該当事項はありません。

従業員兼務役員の従業員分給与のうち重要なもの
重要なものはありません。

(5)【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、純投資以外の目的で保有する株式について、発行会社との中長期的な関係維持の観点から当社の企業価値を高めると考えられる場合に保有することとしております。それ以外は、保有する必要がないと判断し、株式の売却を進めることとしております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

1)保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

- ・当社取締役会は、毎年、純投資以外の目的で保有する株式について、保有目的が適切か、保有に伴う便益やリスクが資本コストに見合っているか等を具体的に精査し、保有の適否を検証するとともに、そうした検証の内容について説明を行っております。
- ・当社は、同株式に係る議決権行使については、発行会社の中長期的な企業価値を高めるかどうかを総合的に判断した上で、適切に行使用することとしております。

2)銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)
非上場株式	-	-
非上場株式以外の株式	2	3

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(百万円)	株式数の増加の理由
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	-	-	-

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(百万円)
非上場株式	-	-
非上場株式以外の株式	-	-

3)特定投資株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
(株)武蔵野銀行	1,416	1,416	(保有目的)金融機関との取引関係強化 のため (定量的な保有効果)(注)	有
	3	4		
(株)三井住友フィナン シャルグループ	124	124	(保有目的)金融機関との取引関係強化 のため (定量的な保有効果)(注)	有
	0	0		

(注) 特定投資株式における定量的な保有効果の記載が困難であるため、保有の合理性を検証した方法について記載いたします。当社は、毎年、純投資以外の目的で保有する株式について保有の適否を検証しており、検証の結果、現状保有する同株式についてはいずれも保有方針に沿った目的で保有していることを確認しております。

保有目的が純投資目的である投資株式

区分	当事業年度		前事業年度	
	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)
非上場株式	1	8	1	8
非上場株式以外の株式	13	113	14	554

区分	当事業年度		
	受取配当金の 合計額(百万円)	売却損益の 合計額(百万円)	評価損益の 合計額(百万円)
非上場株式	0	-	(注)1
非上場株式以外の株式	7	332	51 (-)

(注) 1 非上場株式につきましては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「評価損益の合計額」には記載しておりません。

2 「評価損益の合計額」の()は外書きで、当事業年度の減損処理額であります。

第5【経理の状況】

1 財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（1963年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度（2018年4月1日から2019年3月31日まで）に係る財務諸表について有限責任 あずさ監査法人による監査を受けております。

3 連結財務諸表について

連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則（1976年大蔵省令第28号）第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目から見て、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を誤らせない程度に重要性が乏しいものとして、連結財務諸表は作成しておりません。

4 財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、セミナー等に積極的に参加しております。

1【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	38,898	39,889
受取手形	54	44
売掛金	1,065	1,140
商品及び製品	14,585	13,611
仕掛品	494	372
原材料及び貯蔵品	2,061	1,875
前払費用	46	45
その他	161	379
貸倒引当金	6	6
流動資産合計	57,360	57,351
固定資産		
有形固定資産		
建物	4,729	4,687
減価償却累計額	3,969	3,988
建物(純額)	760	699
構築物	62	62
減価償却累計額	59	60
構築物(純額)	2	2
機械及び装置	164	158
減価償却累計額	134	134
機械及び装置(純額)	30	23
車両運搬具	13	13
減価償却累計額	13	13
車両運搬具(純額)	0	0
工具、器具及び備品	1,105	1,093
減価償却累計額	883	892
工具、器具及び備品(純額)	222	200
土地	8,208	7,695
建設仮勘定	-	49
有形固定資産合計	9,224	8,670
無形固定資産		
借地権	152	152
ソフトウェア	404	277
その他	8	43
無形固定資産合計	565	472
投資その他の資産		
投資有価証券	568	125
関係会社株式	13	33
出資金	1	1
関係会社長期貸付金	79	77
前払年金費用	163	171
繰延税金資産	138	161
差入保証金	3,759	3,455
その他	148	149
貸倒引当金	0	0
投資その他の資産合計	4,873	4,174
固定資産合計	14,662	13,317
資産合計	72,023	70,669

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	146	175
未払金	52	70
未払費用	499	519
未払法人税等	466	400
前受金	29	37
預り金	63	60
賞与引当金	199	191
その他	236	232
流動負債合計	1,693	1,688
固定負債		
役員退職慰労引当金	121	129
その他	43	43
固定負債合計	165	172
負債合計	1,858	1,861
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,098	13,098
資本剰余金		
資本準備金	15,707	15,707
資本剰余金合計	15,707	15,707
利益剰余金		
利益準備金	600	600
その他利益剰余金		
別途積立金	45,610	45,610
繰越利益剰余金	940	814
利益剰余金合計	47,150	47,024
自己株式	6,059	7,059
株主資本合計	69,897	68,770
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	267	37
評価・換算差額等合計	267	37
純資産合計	70,164	68,808
負債純資産合計	72,023	70,669

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
売上高	17,566	17,515
売上原価		
製品期首たな卸高	15,470	14,585
当期製品製造原価	3 7,208	3 7,321
合計	22,679	21,906
他勘定振替高	1 107	1 102
製品期末たな卸高	14,585	13,611
原材料評価損	3	0
製品売上原価	7,990	8,192
売上総利益	9,576	9,322
販売費及び一般管理費	2, 3 8,608	2, 3 8,409
営業利益	968	913
営業外収益		
受取利息	4	4
受取配当金	13	7
為替差益	0	0
受取家賃	59	58
その他	20	17
営業外収益合計	97	88
営業外費用		
支払手数料	-	20
その他	3	0
営業外費用合計	3	20
経常利益	1,062	981
特別利益		
固定資産売却益	4 17	-
投資有価証券売却益	21	332
受取補償金	-	17
特別利益合計	38	350
特別損失		
固定資産売却損	-	5 0
固定資産除却損	6 0	6 5
投資有価証券評価損	-	1
減損損失	7 60	7 588
特別損失合計	61	596
税引前当期純利益	1,039	734
法人税、住民税及び事業税	342	334
過年度法人税等	68	-
法人税等調整額	29	0
法人税等合計	440	335
当期純利益	599	399

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)		当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)			
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)		
材料費	1		6,234	85.8		6,189	86.0
外注加工費			310	4.2		314	4.3
労務費			637	8.8		618	8.6
経費			85	1.2		76	1.1
当期総製造費用			7,266	100.0		7,199	100.0
期首仕掛品たな卸高			436			494	
合計			7,703			7,693	
期末仕掛品たな卸高			494			372	
当期製品製造原価			7,208			7,321	

原価計算の方法

ロット別個別実際(予定)原価計算

なお、予定価格を用いたことにより発生した原価差額は、売上原価・仕掛品及び製品に配賦しております。

1 経費のうち主なものは次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
	金額(百万円)	金額(百万円)
消耗品費	21	22
減価償却費	16	13
水道光熱費	11	10

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

(単位：百万円)

	株主資本						自己株式	株主資本合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金					
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金				
				別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	13,098	15,707	600	47,110	631	6,058	69,826	
当期変動額								
別途積立金の取崩				1,500	1,500		-	
剰余金の配当					527		527	
当期純利益					599		599	
自己株式の取得						0	0	
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	1,500	1,571	0	71	
当期末残高	13,098	15,707	600	45,610	940	6,059	69,897	

	評価・換算差額等	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	
当期首残高	347	70,173
当期変動額		
別途積立金の取崩		-
剰余金の配当		527
当期純利益		599
自己株式の取得		0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	80	80
当期変動額合計	80	9
当期末残高	267	70,164

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本						株主資本合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金			自己株式	
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金			
				別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	13,098	15,707	600	45,610	940	6,059	69,897
当期変動額							
別途積立金の取崩							-
剰余金の配当					526		526
当期純利益					399		399
自己株式の取得						999	999
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)							
当期変動額合計	-	-	-	-	126	999	1,126
当期末残高	13,098	15,707	600	45,610	814	7,059	68,770

	評価・換算差額等	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	
当期首残高	267	70,164
当期変動額		
別途積立金の取崩		-
剰余金の配当		526
当期純利益		399
自己株式の取得		999
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	230	230
当期変動額合計	230	1,356
当期末残高	37	68,808

【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	1,039	734
減価償却費	363	354
減損損失	60	588
差入保証金償却額	4	4
賞与引当金の増減額(は減少)	12	7
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	14	7
受取利息及び受取配当金	18	12
投資有価証券売却損益(は益)	21	332
為替差損益(は益)	0	0
投資有価証券評価損益(は益)	-	1
固定資産除却損	0	5
固定資産売却損益(は益)	17	0
売上債権の増減額(は増加)	204	64
たな卸資産の増減額(は増加)	910	1,282
仕入債務の増減額(は減少)	6	29
未払消費税等の増減額(は減少)	52	17
その他	94	2
小計	2,231	2,577
利息及び配当金の受取額	18	12
法人税等の支払額	366	399
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,883	2,190
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	1	1
投資有価証券の売却による収入	24	522
有形固定資産の取得による支出	223	181
有形固定資産の売却による収入	38	1
無形固定資産の取得による支出	118	63
関係会社株式の取得による支出	-	20
貸付金の回収による収入	2	2
差入保証金の差入による支出	39	65
差入保証金の回収による収入	179	175
その他	20	11
投資活動によるキャッシュ・フロー	157	357
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	0	1,017
自己株式取得のための預託金の増減額 (は増加)	-	13
配当金の支払額	527	526
財務活動によるキャッシュ・フロー	527	1,556
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,197	991
現金及び現金同等物の期首残高	37,700	38,898
現金及び現金同等物の期末残高	38,898	39,889

【注記事項】

(重要な会計方針)

- 1 有価証券の評価基準及び評価方法
 - (1) 子会社株式
移動平均法による原価法
 - (2) その他有価証券
時価のあるもの
決算末日の市場価格等による時価法
(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)
時価のないもの
移動平均法による原価法
- 2 たな卸資産の評価基準及び評価方法
 - (1) 評価基準
原価法(収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)
 - (2) 評価方法
製品・仕掛品・原材料(地金等を除く)
個別法(製造ロット別)
原材料(地金等)・その他の棚卸資産
移動平均法
- 3 固定資産の減価償却の方法
 - (1) 有形固定資産.....定率法によっております。
また、主な耐用年数は次のとおりです。
建物 3年～50年 工具、器具及び備品 2年～20年
ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。
なお、少額減価償却資産については、3年間で均等償却する方法を採用しております。
 - (2) 無形固定資産
ソフトウェア.....社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法
- 4 引当金の計上基準
 - (1) 貸倒引当金
債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により計上し、貸倒懸念債権等の特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
 - (2) 賞与引当金
従業員賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当事業年度負担額を計上しております。
 - (3) 退職給付引当金
従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による按分額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。
なお、退職給付引当金が借方残高であるため、前払年金費用として計上しております。
 - (4) 役員退職慰労引当金
役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。
- 5 キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲
手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない短期的な投資を資金としております。
- 6 その他財務諸表作成のための重要な事項
消費税等の会計処理
税抜処理によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2018年3月30日 企業会計基準委員会)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2018年3月30日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

国際会計基準審議会(IASB)及び米国財務会計基準審議会(FASB)は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、2014年5月に「顧客との契約から生じる収益」(IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606)を公表しており、IFRS第15号は2018年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は2017年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわせない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中でありませ

(表示方法の変更)

(貸借対照表)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」87百万円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」138百万円に含めて表示しております。

(損益計算書関係)

- 1 製品売上原価の他勘定振替高は、主に原材料への振替による製品の減少高であります。
- 2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度82%、当事業年度82%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度18%、当事業年度18%であります。
販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
販売諸費・手数料	904百万円	977百万円
給与・賞与	3,256	3,104
賞与引当金繰入額	164	156
退職給付費用	39	39
役員退職慰労引当金繰入額	7	7
減価償却費	346	341
賃借料	1,919	1,884

- 3 一般管理費及び当期総製造費用に含まれる研究開発費

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
	33百万円	21百万円

4 固定資産売却益の内容は次のとおりです。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
建 物	0百万円	-百万円
土 地	16	-
計	17	-

5 固定資産売却損の内容は次のとおりです。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
機械及び装置	-百万円	0百万円
計	-	0

6 固定資産除却損の内容は次のとおりです。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
建 物	0百万円	2百万円
機械及び装置	0	0
工具、器具及び備品	0	0
電話加入権	-	2
計	0	5

7 減損損失

当社は、以下の資産について減損損失を計上しております。

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

用 途	種 類	場 所
店 舗	土地及び建物等	千葉県、東京都 他

当社は、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗ごとに資産のグルーピングをしております。そのグルーピングに基づき、減損会計の手続きを行った結果、土地の時価の著しい下落等により投資額を回収することが困難になった固定資産について帳簿価額を回収可能額まで減額し、減損損失(60百万円)として特別損失に計上しております。減損損失の内訳は、店舗 60百万円(建物 17百万円、工具、器具及び備品 5百万円、土地 37百万円)であります。

なお、当資産グループの回収可能額は正味売却価額または使用価値により測定しております。正味売却価額については、対象資産の処分可能性を考慮の上、実質的に価値がないと判断し、正味売却価額をゼロとして評価しております。また、使用価値については将来キャッシュ・フローを6.8%で割り引いて算定しております。

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

用 途	種 類	場 所
店 舗	土地及び建物等	埼玉県、東京都 他

当社は、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗ごとに資産のグルーピングをしております。そのグルーピングに基づき、減損会計の手続きを行った結果、土地の時価の著しい下落等により投資額を回収することが困難になった固定資産について帳簿価額を回収可能額まで減額し、減損損失(588百万円)として特別損失に計上しております。減損損失の内訳は、店舗 588百万円(建物 58百万円、工具、器具及び備品 17百万円、土地 512百万円)であります。

なお、当資産グループの回収可能額は正味売却価額または使用価値により測定しております。正味売却価額については、対象資産の処分可能性を考慮の上、実質的に価値がないと判断し、正味売却価額をゼロとして評価しております。また、使用価値については将来キャッシュ・フローを4.9%で割り引いて算定しております。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	20,080,480	-	-	20,080,480
合計	20,080,480	-	-	20,080,480
自己株式				
普通株式(注)	2,499,106	203	-	2,499,309
合計	2,499,106	203	-	2,499,309

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加203株は、単元未満株式の買取りによる増加203株であります。

2 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2017年6月29日 定時株主総会	普通株式	263	15	2017年3月31日	2017年6月30日
2017年11月10日 取締役会	普通株式	263	15	2017年9月30日	2017年12月7日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額(百万円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年6月28日 定時株主総会	普通株式	263	利益剰余金	15	2018年3月31日	2018年6月29日

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	20,080,480	-	-	20,080,480
合計	20,080,480	-	-	20,080,480
自己株式				
普通株式(注)	2,499,309	491,099	-	2,990,408
合計	2,499,309	491,099	-	2,990,408

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加491,099株は、取締役会決議による自己株式の取得による増加490,900株、単元未満株式の買取りによる増加199株であります。

2 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年6月28日 定時株主総会	普通株式	263	15	2018年3月31日	2018年6月29日
2018年11月9日 取締役会	普通株式	262	15	2018年9月30日	2018年12月7日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額(百万円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	256	利益剰余金	15	2019年3月31日	2019年6月28日

(キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
現金及び預金勘定	38,898百万円	39,889百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	-	-
現金及び現金同等物	38,898	39,889

(リース取引関係)

オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
	金額(百万円)	金額(百万円)
1年内	33	50
1年超	26	46
合計	59	96

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用において、短期的な安全性の高い金融資産で運用し、資金調達については、銀行等金融機関からの借入による方針であります。デリバティブ取引は、外貨建輸入取引の範囲内で、外貨建営業債務に係る将来の為替レートの変動リスクを回避する目的で為替予約取引を利用し、投機的な目的での取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

ショッピングセンター等への出店による差入保証金は、賃借先である家主自身の経営環境の変化による未返還のリスクに晒されております。

輸入取引から生じる外貨建営業債務は、為替の変動リスクに晒されております。為替予約取引の契約先は信用度の高い国内の銀行であり、契約不履行によるリスクは極めて少ないと認識しております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

営業債権である売掛金のリスクに関しては、当社の販売管理規程及び与信管理取扱規程等に従い、取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引先ごとに期日管理及び残高管理を行うとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握等により軽減を図っております。

投資有価証券の市場価格の変動リスクに関しては、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、四半期毎に把握された時価や発行体の財務状況を把握し、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

差入保証金のリスクに関しては、取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引先ごとに回収管理及び残高管理を行うとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握等により軽減を図っております。

輸入取引から生じる外貨建営業債務の為替の変動リスクは、そのほとんどが1年以内の支払期日であり、デリバティブ取引(為替予約取引)を外貨建輸入取引実行時にすみやかに行うことにより外国為替相場の変動リスクを極力抑えております。また、デリバティブの利用に当たっては、信用リスクを軽減するために、格付けの高い金融機関とのみ取引を行っております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価等を把握することが極めて困難と認められるものは、含まれておりません。(注)2 参照)

前事業年度(2018年3月31日)

	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	38,898	38,898	-
(2) 売掛金	1,065	1,065	-
(3) 投資有価証券 其他有価証券	560	560	-
(4) 差入保証金	49	49	0

当事業年度(2019年3月31日)

	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	39,889	39,889	-
(2) 売掛金	1,140	1,140	-
(3) 投資有価証券 其他有価証券	117	117	-
(4) 差入保証金	198	198	0

(注)1 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については「有価証券関係」注記をご参照願います。

(4) 差入保証金

これらの時価は、返済期日までの期間及び信用リスクを加味した利率で割引いた現在価値により算定しております。

2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区 分	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
	金額(百万円)	金額(百万円)
非上場株式(*)1	8	8
子会社株式(*)2	13	33
差入保証金(*)3	3,741	3,432

(*)1 市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため(3)投資有価証券 其他有価証券には含めておりません。

(*)2 市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため時価開示の対象とはしておりません。

(*)3 償還予定が合理的に見積れず、時価を把握することが極めて困難と認められるため(4)差入保証金には含めておりません。

3 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額
前事業年度(2018年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	38,898	-	-	-
売掛金	1,065	-	-	-
差入保証金(*)	30	18	-	-
合計	39,993	18	-	-

(*) 差入保証金のうち償還予定を合理的に見積ることができない3,741百万円は含めておりません。

当事業年度(2019年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	39,889	-	-	-
売掛金	1,140	-	-	-
差入保証金(*)	175	22	-	-
合計	41,205	22	-	-

(*) 差入保証金のうち償還予定を合理的に見積ることができない3,432百万円は含めておりません。

(有価証券関係)

1 子会社株式及び関連会社株式

子会社株式及び関連会社株式(前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式13百万円、当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式33百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

2 その他有価証券

前事業年度(2018年3月31日)

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	555	250	304
小計	555	250	304
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	4	5	0
小計	4	5	0
合計	560	255	304

(注) 非上場株式(貸借対照表計上額 8百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当事業年度(2019年3月31日)

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	114	63	51
小計	114	63	51
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	3	5	1
小計	3	5	1
合計	117	68	49

(注) 非上場株式(貸借対照表計上額 8百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3 売却したその他有価証券

前事業年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

種類	売却額（百万円）	売却益の合計額 （百万円）	売却損の合計額 （百万円）
株式	24	21	-
合計	24	21	-

当事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

種類	売却額（百万円）	売却益の合計額 （百万円）	売却損の合計額 （百万円）
株式	522	332	-
合計	522	332	-

（デリバティブ取引関係）

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前事業年度（2018年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（2019年3月31日）

該当事項はありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

前事業年度（2018年3月31日）

重要性が乏しいため記載を省略しております。

当事業年度（2019年3月31日）

重要性が乏しいため記載を省略しております。

（退職給付関係）

1 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、規約型確定給付企業年金制度を設けております。

2 確定給付制度

(1)退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前事業年度 （自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）	当事業年度 （自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）
	金額（百万円）	金額（百万円）
退職給付債務の期首残高	801	814
勤務費用	75	71
利息費用	5	5
数理計算上の差異の発生額	6	12
退職給付の支払額	74	60
退職給付債務の期末残高	814	818

(2)年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
	金額(百万円)	金額(百万円)
年金資産の期首残高	981	994
期待運用収益	19	19
数理計算上の差異の発生額	9	11
事業主からの拠出額	57	54
退職給付の支払額	74	60
年金資産の期末残高	994	995

(3)退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
	金額(百万円)	金額(百万円)
積立型制度の退職給付債務	814	818
年金資産	994	995
	180	177
非積立型制度の退職給付債務	-	-
未積立退職給付債務	180	177
未認識数理計算上の差異	16	6
未認識過去勤務費用	-	-
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	163	171
前払年金費用	163	171
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	163	171

(4)退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
	金額(百万円)	金額(百万円)
勤務費用	75	71
利息費用	5	5
期待運用収益	19	19
数理計算上の差異の費用処理額	15	10
確定給付制度に係る退職給付費用	46	46

(5)年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
	率(%)	率(%)
生命保険一般勘定	52	51
株式	22	21
債券	25	26
その他	1	2
合計	100	100

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(6)数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
	率(%)	率(%)
割引率	0.7	0.7
長期期待運用収益率	2.0	2.0

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
	金額(百万円)	金額(百万円)
繰延税金資産		
減損損失	2,341	2,498
投資有価証券評価損	110	2
未払事業税	43	44
賞与引当金	34	32
役員退職慰労引当金	37	39
保証金償却	30	30
その他	35	13
小計	2,633	2,659
評価性引当額	2,406	2,432
繰延税金資産合計	227	227
繰延税金負債		
前払年金費用	49	52
その他	38	13
繰延税金負債合計	88	66
繰延税金資産の純額	138	161

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
法定実効税率	30.7%	30.5%
(調整)		
住民税均等割	9.1	13.0
評価性引当額	1.8	3.6
過年度法人税等	6.6	-
その他	2.3	1.5
税効果会計適用後の法人税等の負担率	42.3	45.6

(持分法損益等)

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

資産除去債務の総額に重要性が乏しいため、記載しておりません。

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

資産除去債務の総額に重要性が乏しいため、記載しておりません。

(賃貸等不動産関係)

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、記載しておりません。

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、記載しておりません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

当社の事業内容は、ネックレス・プレスレット、指輪、小物等の宝飾品の製造とその販売であり、区分すべき事業セグメントが存在しないため、記載を省略しております。

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

当社の事業内容は、ネックレス・プレスレット、指輪、小物等の宝飾品の製造とその販売であり、区分すべき事業セグメントが存在しないため、記載を省略しております。

【関連情報】

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報 (単位 百万円)

	ネックレス・プレスレット	指輪	小物	その他	合計
外部顧客への売上高	6,459	6,402	2,927	1,777	17,566

2 地域ごとの情報

(1)売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2)有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報 (単位 百万円)

	ネックレス・プレスレット	指輪	小物	その他	合計
外部顧客への売上高	6,308	6,178	2,937	2,090	17,515

2 地域ごとの情報

(1)売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2)有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前事業年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

区分すべき事業セグメントが存在しないため、記載を省略しております。

当事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

区分すべき事業セグメントが存在しないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前事業年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前事業年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前事業年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

記載すべき事項はありません。

当事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

記載すべき事項はありません。

（1株当たり情報）

	前事業年度 （自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）	当事業年度 （自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）
1株当たり純資産額	3,990 円 91 銭	4,026 円 20 銭
1株当たり当期純利益金額	34 円 8 銭	22 円 93 銭

（注）1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額につきましては、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前事業年度 （自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）	当事業年度 （自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）
当期純利益金額（百万円）	599	399
普通株主に帰属しない金額（百万円）	-	-
普通株式に係る当期純利益金額（百万円）	599	399
期中平均株式数（株）	17,581,299	17,423,793

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	4,729	109	151 (58)	4,687	3,988	110	699
構築物	62	-	-	62	60	0	2
機械及び装置	164	2	9	158	134	7	23
車両運搬具	13	-	-	13	13	0	0
工具、器具及び備品	1,105	70	82 (17)	1,093	892	73	200
土地	8,208	-	512 (512)	7,695	-	-	7,695
建設仮勘定	-	174	125	49	-	-	49
有形固定資産計	14,283	357	880 (588)	13,760	5,089	192	8,670
無形固定資産							
借地権	-	-	-	152	-	-	152
ソフトウェア	-	-	-	817	539	162	277
その他	-	-	-	43	-	-	43
無形固定資産計	-	-	-	1,012	539	162	472
繰延資産	-	-	-	-	-	-	-
繰延資産計	-	-	-	-	-	-	-

(注) 1 無形固定資産の金額が資産の総額の1%以下であるため「当期首残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

2 「当期減少額」欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

該当事項はありません。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	6	6	-	6	6
賞与引当金	199	191	199	-	191
役員退職慰労引当金	121	7	-	-	129

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」欄の金額は、一般債権の貸倒実績率による洗替額であります。

【資産除去債務明細表】

当事業年度期首及び当事業年度末における資産除去債務の金額が、当事業年度期首及び当事業年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、財務諸表等規則第125条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

資産の部

1) 現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	50
預金	
当座預金	5,540
普通預金	348
定期預金	33,950
計	39,839
合計	39,889

2) 受取手形

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
株オリエントコーポレーション	11
株ジャックス	7
三和開発株	2
株フィッシュランド	2
株ニイミ時計店	2
その他	16
合計	44

(ロ) 期日別内訳

期日別	金額(百万円)
2019年3月 満期	6
" 4月 "	13
" 5月 "	7
" 6月 "	7
" 7月 "	6
" 8月 "	2
" 9月 "	0
合計	44

3) 売掛金

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
イオンモール(株)	315
イオンリテール(株)	135
(株)ジェーシービー	77
ユーシーカード(株)	56
(株)クレディセゾン	47
その他	508
合計	1,140

(ロ) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (百万円)	当期発生高 (百万円)	当期回収高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{2} \div \frac{(B)}{365}$
1,065	15,067	14,992	1,140	92.9	26

(注) 消費税等の会計処理は、税抜方式を採用しておりますが、上記当期発生高には消費税等が含まれております。

4) 商品及び製品

区分	金額(百万円)
製 品	
指輪	7,669
ネックレス・ブレスレット	4,616
小物	1,318
その他	7
合計	13,611

5) 仕掛品

区分	金額(百万円)
指輪	89
ネックレス・ブレスレット	156
小物	23
その他	102
合計	372

6) 原材料及び貯蔵品

区分	金額(百万円)
原材料	
金・白金	394
貴石・半貴石	1,291
その他	98
計	1,784
貯蔵品	
販促用品 他	90
計	90
合計	1,875

7) 差入保証金

区分	金額(百万円)
店舗関係敷金保証金 他	3,455
合計	3,455

負債の部

1) 買掛金

相手先	金額(百万円)
田中貴金属工業(株)	38
住商マテリアル(株)	25
(株)大月真珠	23
(有)大分ツツミ貴金属	19
MIDAS HEDIYELIK ESYA SAN.VE TIC.A.S.	11
その他	57
合計	175

(3) 【その他】

当事業年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当事業年度
売上高 (百万円)	3,783	7,920	12,982	17,515
税引前四半期(当期)純利益金額(百万円)	76	217	560	734
四半期(当期)純利益金額 (百万円)	46	245	306	399
1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	2.61	13.98	17.48	22.93
(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	2.61	11.36	3.47	5.43

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで														
定時株主総会	6月中														
基準日	3月31日														
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日														
1単元の株式数	100株														
単元未満株式の買取り															
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部														
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社														
取次所															
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額														
公告掲載方法	電子公告により行う。但し、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じた場合には、日本経済新聞に掲載する。 なお、電子公告は当社ホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおり。(http://www.tsutsumi.co.jp/)														
株主に対する特典	<p>株主優待制度</p> <p>(1) 毎年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された当社株式1単元(100株)以上を保有されている株主様を対象として、次のとおり株主優待割引券を贈呈いたします。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ご保有株式数</th> <th>優待内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100株以上</td> <td>当社商品代金の10%割引券1枚</td> </tr> <tr> <td>500株以上</td> <td>当社商品代金の10%割引券2枚</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 毎年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された当社株式1単元(100株)以上を保有されている株主様を対象として、次のとおり株式継続保有期間に応じ、クオカードを贈呈いたします。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>株式継続保有期間</th> <th>優待内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3年未満</td> <td>1,000円相当の「クオカード」</td> </tr> <tr> <td>3年以上継続保有</td> <td>3,000円相当の「クオカード」</td> </tr> <tr> <td>5年以上継続保有</td> <td>5,000円相当の「クオカード」</td> </tr> </tbody> </table> <p>継続保有期間とは、いずれの時点においても株主名簿に記載または記録された日から基準日(3月31日)までに同一の株主番号で連続して保有した期間をいいます。</p>	ご保有株式数	優待内容	100株以上	当社商品代金の10%割引券1枚	500株以上	当社商品代金の10%割引券2枚	株式継続保有期間	優待内容	3年未満	1,000円相当の「クオカード」	3年以上継続保有	3,000円相当の「クオカード」	5年以上継続保有	5,000円相当の「クオカード」
ご保有株式数	優待内容														
100株以上	当社商品代金の10%割引券1枚														
500株以上	当社商品代金の10%割引券2枚														
株式継続保有期間	優待内容														
3年未満	1,000円相当の「クオカード」														
3年以上継続保有	3,000円相当の「クオカード」														
5年以上継続保有	5,000円相当の「クオカード」														

(注) 当社の単元未満株式を有する株主は、単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使できません。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書
事業年度(第45期)(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日) 2018年6月28日関東財務局長に提出
- (2) 内部統制報告書及びその添付書類
2018年6月28日関東財務局長に提出
- (3) 四半期報告書及び確認書
(第46期第1四半期)(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日) 2018年8月13日関東財務局長に提出
(第46期第2四半期)(自 2018年7月1日 至 2018年9月30日) 2018年11月12日関東財務局長に提出
(第46期第3四半期)(自 2018年10月1日 至 2018年12月31日) 2019年2月12日関東財務局長に提出
- (4) 臨時報告書
2018年7月2日関東財務局長に提出
企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)に基づく臨時報告書であります。
- (5) 自己株券買付状況報告書
報告期間(自 2018年8月1日 至 2018年8月31日)2018年9月7日関東財務局長に提出
報告期間(自 2018年9月1日 至 2018年9月30日)2018年10月5日関東財務局長に提出
報告期間(自 2018年10月1日 至 2018年10月31日)2018年11月7日関東財務局長に提出
報告期間(自 2018年11月1日 至 2018年11月30日)2018年12月7日関東財務局長に提出
報告期間(自 2018年12月1日 至 2018年12月31日)2019年1月10日関東財務局長に提出
報告期間(自 2019年1月1日 至 2019年1月31日)2019年2月7日関東財務局長に提出
報告期間(自 2019年2月1日 至 2019年2月28日)2019年3月7日関東財務局長に提出
報告期間(自 2019年3月1日 至 2019年3月31日)2019年4月1日関東財務局長に提出
報告期間(自 2019年4月1日 至 2019年4月30日)2019年5月10日関東財務局長に提出
報告期間(自 2019年5月1日 至 2019年5月31日)2019年6月7日関東財務局長に提出

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2019年6月27日

株式会社ツツミ

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 福島 力

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 川村 英紀

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ツツミの2018年4月1日から2019年3月31日までの第46期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ツツミの2019年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ツツミの2019年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社ツツミが2019年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
 2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。